



# 京大広報

No. 632

2008.3



物質-細胞統合システム拠点(iCeMS=アイセムス)開所式  
左から尾池和夫総長、林 幸秀文部科学省文部科学審議官、小野元之日本学術振興会理事長、  
服部重彦株式会社島津製作所代表取締役社長、K.VijayRaghavanインド国立生命科学研究センター所長、松本 紘理事・副学長  
—関連記事 本文2564ページ—

## 目次

監事活動からみた京都大学の業務  
監事 原 潔……2560

〈大学の動き〉  
平成20年度入学者選抜学力試験の第1段階  
選抜状況……2562  
部局長の交替等……2563  
上海交通大学との学术交流……2563  
名誉教授称号授与式……2563  
京都大学・大阪フォーラムを開催……2564

〈部局の動き〉  
物質-細胞統合システム拠点(iCeMS =アイセムス)  
が開所式・国際シンポジウムを開催……2564

〈栄誉〉  
山中伸弥物質-細胞統合システム拠点IPS 細胞  
研究センター長/再生医科学研究所教授が  
ロベルト・コッホ賞を受賞……2565

〈日誌〉……2565

〈寸言〉  
古都京都に思いを馳せて 岡部敬一郎……2566

〈随想〉  
教養課程の思い出 名誉教授 荒木 徹……2567

〈洛書〉  
塞翁が馬 戸田剛文……2568

〈話題〉  
生存圏研究所がマレーシアで第83回生存圏セミナー  
を開催……2569  
第11回リカレント教育講座『心の教育』を考える  
—発達障害と家族への支援—を開催……2569  
マラヤ大学工学部長が工学研究科を訪問……2570  
きさらぎコンサートを開催……2570

〈計報〉……2571

〈公開講座〉  
情報学研究科公開講座「知っていますか? ITの  
秘密」……2572

〈お知らせ〉  
人文研アカデミー アントニオ・ネグリ講演  
「知識労働とプレカリアート」……2572

〈隔地施設紹介〉  
フィールド科学教育研究センター北海道研究林  
……2573

**隔地施設  
紹介**



雄阿寒岳 (1371m) と森林の垂直分布



釧路湿原



標茶のカラマツ人工林

**フィールド科学教育研究センター北海道研究林 (<http://www9.ocn.ne.jp/~sibe/>)**

北海道研究林は北海道東部に位置し、釧路市の北北東45kmの標茶区と西40kmの白糠区からなる。ともに旧陸軍省軍馬補充部用地跡に1949年と1950年に設置された。

標茶区は根釧原野のほぼ中央、釧路湿原の北東端の緩やかな丘陵地に位置し、標高30~149m、面積は1,447haである。年平均気温は5.7℃、年降水量は1,157mm、積雪は30cm程度で、表日本型の内陸性気候を示す。夏季は最高気温が30℃に達することもあるが、冬季は晴天の日が多く乾燥した北西季節風のために最低気温が-30℃近くまで低下する。北海道の中でも気象条件が厳しい地域である。白糠区は阿寒山群の南端に位置し、標高64~270m、面積は880haである。年平均気温は7.3℃、年降水量は1,318mm、積雪は60cm程度で、夏季は太平洋の海岸線に近いために海霧によって日照不足になり易く、冬季の最低気温が-25℃以下になることは稀である。



天然林の植生はミズナラ、ハルニレ、ヤチダモをはじめとする落葉広葉樹にトマツなどの針葉樹が混じる温帯から亜寒帯への移行帯にあたり、標茶区では針葉樹を欠く。両区で100種に近い樹木種が確認され、河川沿いの湿地林の林床にはヤチボウズも見られる。標茶区では人工林420haのうち200haにカラマツが植栽され、白糠区では人工林125haのうちトマツ林が80haを占める。研究林にはエゾシカ、キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾヤチネズミ、クマタカ、クマゲラ、ヤマゲラなども生息しており、エゾシカによる森林被害も深刻である。白糠区ではヒグマの痕跡もみられ、入林には充分注意が必要である。

研究林は、釧路湿原、阿寒、知床の3つの国立公園と至近距離にあり、その地理的特性を活かして全学共通および農学部の実習が年4回行われている。「森-里-海連環学実習C」は北海道大学と共同で行っているもので、自然度が高い別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、



エゾシカ



ヤチボウズ



シラカンバ



ホザキシモツケ



標茶管理棟



白糠管理棟



木工体験教室



森一里一海連環学実習C

北海道東部の人と自然・研究林実習Ⅲ



北海道東部の厳冬の自然環境・研究林実習Ⅳ

そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生，土壌，水質・水生生物調査を通じて，森一里一海の繋がりを学ぶ。夏の「北海道東部の人と自然・研究林実習Ⅲ」は，北方の森林・湿原植生，森林の垂直分布や火山性土壌，道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに森林作業を体験する。冬の「北海道東部の厳冬の自然環境・研究林実習Ⅳ」は，季節凍土が発達する道東において，冬の森林，積雪・凍土の調査法を修得し，環境資源としての森林の役割や持続的な管理について学ぶ。「調査研究方法論実習Ⅰ」は研究林を拠点に，国有林・知床自然センターの協力の下に，世界自然遺産の知床半島や阿寒・釧路湿原国立公園の森林・林業を調査し，人と自然の新しい関係を探ることを目的としている。これら実習はセンター発足後の2003年度以降に始まったものも多く，近年，実習等で利用する人数は増加傾向にある。また，木工体験教室など，地元の小中学生を中心とする利用も増加しており，教育・宿泊施設の充実をはかることが目下の重要課題である。

研究面では，長年にわたり天然林の動態や人工林の成長に関する調査，気象観測，酸性降下物のモニタリング調査，樹木フェノロジー観察が行われてきた。2003年からは樹木の生活史，物質循環に関するプロジェクト研究も始まった。

標茶区は北緯：43° 19′ 東経：144° 37′，大学研究林としては日本の最東に位置する。4月の雪解けとともにフクジュソウが咲き始めるが，凍土が融解して林内に車で入れるのは5月連休明けである。サクラの開花は5月後半，木々が充分に開葉するのは6月後半となる。初夏の夜明けは早く，11月後半には午後3時を過ぎると夕焼けとなり，京都とは1時間ほど異なる。山や湿原では短い夏に高山植物が咲き乱れ，9月後半には紅葉・落葉が始まる。10月半ばには最低気温がマイナスを記録し，山道ではスノータイヤが必要である。道東では酪農や大農経営で生計を立てているために，街に集中することなく，家族単位で隣近所と離れて生活している家庭も多い。車は高速で疾走し，自転車に乗った子供達を見ることが少ない。本州とは異なる自然環境と生活形態をもつ道東に，是非訪れて頂きたいと思っている。

〒088-2339

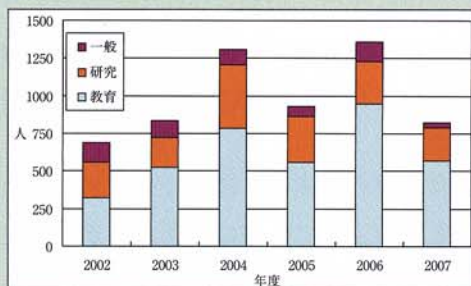
北海道川上郡標茶町多和

電話：015-485-2637 FAX：015-485-4016

E-mail：hokuenji@kais.kyoto-u.ac.jp

### 職員構成

教員1人，事務職員2人，技術職員6人，時間雇用職員1人



研究林利用者の推移 \*2007年度は2月末までの集計

### アクセス

- ・航空機：関西，伊丹，中部国際，羽田空港から釧路，女満別空港まで1.5～2.5時間。釧路空港からJR釧路駅，女満別空港からJR網走駅へは連絡バスでそれぞれ45，25分。
- ・フェリー：舞鶴，敦賀港から小樽，苫小牧東港まで19～20時間。JR小樽駅，JR苫小牧駅からJR札幌駅まで約1時間。JR札幌駅からJR釧路駅まではJR特急あるいはバスで4～6.5時間。

### 標茶研究管理棟

- ・JR釧路駅—JR標茶駅 1時間
- ・JR網走駅—JR標茶駅 2時間10分
- ・JR標茶駅—標茶管理棟(3.3km)徒歩50分

### 白糖研究管理棟

- ・JR釧路駅—JR白糖駅 約40分
- ・JR白糖駅—白糖管理棟(2.0km)徒歩30分
- バスで約1時間